様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００９６７

研究課題名（和文）『室町遺文』の基礎的研究

研究課題名（英文）A basic study of Muromachi Ibun

研究代表者
佐伯　弘次（SAEKI, Koji）

九州大学・人文科学研究院・特任研究員

研究者番号：７０１６７４１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：九州の中世文書のうち、文書が多い佐賀県・大分県に関しては、データベースを作成した。九州大学やそれ以外の機関が所蔵する中世文書原本の調査を行い、釈文の再検討の他、料紙・封式・墨色等についても検討を行った。九州大学所蔵「来島文書」「草野文書」「一紙文書」については、史料集を作成した。
九州の中世文書を時代別に数量的分析を行い、南北朝期と戦国期の文書が多いこと、室町期の文書は少ないことを明らかにした。その原因は、室町時代の九州が政治的に不安定であったことと、文書作成状況の変化によるものと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
九州は中世文書の宝庫とされているが、その時代別の特色やその背景に関してはあまり検討されてこなかった。本研究では、2万点以上の九州の中世文書を時代別の数量分析を行い、時代的な特徴とその歴史的背景について解明することができた。こうした研究成果は、文化財の保存や研究にとっても大きな意義を有している。

研究成果の概要（英文）：Among the medieval documents in Kyushu, for Saga Prefecture and Oita Prefecture, which have many documents, a database was created. We investigated the original medieval documents held by Kyushu University and other institutions, reexamined how to read documents, and also examined how to make paper and seal. For the Kurushima Documents, Kusano Documents, and Ichishi Documents in the collection of Kyushu University, a collection of historical materials has been prepared. I conducted a quantitative analysis of medieval documents in Kyushu by period. As a result, it became clear that there were many documents from the North-South and Sengoku periods, and that there were few documents from the Muromachi period. This is thought to be due to the political instability of Kyushu during the Muromachi period and changes in the document preparation situation.

研究分野：日本中世史

キーワード：室町遺文　九州　中世文書　文書史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

竹内理三氏による『寧楽遺文』、『平安遺文』、『鎌倉遺文』の編纂・刊行は、日本史学界に大きな便宜と影響を与えた。それらの刊行を受けて、『南北朝遺文』、『戦国遺文』が地域別・大名別に刊行され、さらに学界に大きな便宜を与えた。ところが、室町時代の文書を網羅した『室町遺文』の刊行はまだなされておらず、大きな課題を残していた。したがって、室町時代史研究の基礎となる『室町遺文』の刊行が待望されていた。

２．研究の目的

竹内理三編『鎌倉遺文』や『南北朝遺文』、『戦国遺文』の刊行を前提として、室町時代の文書を集大成する必要がある。本研究では、九州地域に限定して、『室町遺文』編纂の基礎的作業と研究を目的とする。

３．研究の方法

第一に、既刊・未刊を問わず、室町時代（1392 年：南北朝の合一～1467 年：応仁の乱の開始）の九州地域の古文書を集大成し、データベースを構築する。作成したデータベースをもとに、史料的な特徴を検討し、室町時代の九州地域の史料論（文書論）を明確にして、室町期九州史の歴史的特質を解明する。

こうした文書を収録する刊本は多数あるが、いくつかの文書に関しては、文書の原本調査を行い、文書原本から見た史料の特徴を検討する。とくに九州大学所蔵の中世文書に関しては、原本の詳細な検討を行い、史料集を作成する。

４．研究成果

（1）室町遺文九州編データベースの作成

九州は中世文書の宝庫とされるが、室町期の文書を収集し、そのデータベースを作成した。具体的には、『佐賀県史料集成』全 30 巻と『大分県史料』全 37 巻の中から、室町時代の文書に関してデータベース化＝目録化を行った。

（2）九州大学所蔵中世文書の調査と史料集作成

九州大学附属図書館所蔵の中世文書の内、文学部日本史学研究室架蔵の中世文書の原本調査を行った。デジタルカメラによる写真撮影を行い、詳細な原本調査を実施して、従来の史料集では指摘されていない追筆・裏書等を発見した。花押の比定についても最新の研究成果に従って、修正を試みた。

「来島文書」（肥前松浦党大島氏の家文書）全 3 巻 41 通、「草野文書」（筑後国御家人草野氏の家文書）全 4 巻 61 通、「一紙文書」（日向小串文書・筑後蒲池文書・対馬宗義智文書）計 8 通については、釈文を作成し、1 通ごとの写真とともに、研究成果を独自にまとめた『研究成果報告書』に収録した。

（3）中世文書の原本調査

九州大学所蔵の中世文書の他、国立歴史民俗博物館所蔵文書、小城市歴史資料館所蔵文書、筑後木屋文書等の原本調査を行った。文書の料紙・封式・墨色といった原本でしかわからない要素についても検討を行った。

とくに戦国時代の豊後大友氏は、書状形式の文書を多く発給したが、それらの封式には、室町幕府の公文書の折り方（竪の中折）と同様の折り方をしているものがあることを認識した。これは、守護大名・戦国大名による室町幕府文書の模倣であり、幕府の権威の問題と深く関わるものである。ただし、室町将軍文書は、御判御教書等の公文書に見られる封式であり、切封・墨引はないが、大友氏の場合、書状が多く、切封・墨引が見られる点が幕府文書とは異なっている。今後、こうした封式が、他の守護大名・戦国大名や国人でも採用されていないかを検証する必要がある。

（4）室町時代の九州の文書の特色究明

九州の中世文書の時代別の数量分析を行った。具体的には、九州の中世を、鎌倉時代（1185 年～1333 年）・南北朝時代（1334 年～1392 年）・室町時代（1393 年～1466 年）・戦国時代（1467 年～1587 年）の 4 時代に区分し、地域（県）毎にその数量の変化を検討した。

その結果、①南北朝期と戦国期が多く、南北朝期が最多である地域（佐賀県・熊本県・宮崎県・鹿児島県）、②南北朝期と戦国期が多く、戦国期が最多である地域（太宰府天満宮・大分県）、③時代が下るに従い、数が増加する地域（宇佐宮・対馬）、④鎌倉・南北朝期に集中し、室町期以降減少する地域（松浦党、肥前や薩摩・大隅の国人の家文書）の 4 つの類型があることを明らかにした。当初の予想では、③のタイプが一般的と考えたが、そのパターンはむしろ例外で、①と②の地域が多いことが判明した。

時代別では、南北朝期と戦国期に多く、室町期は 4 時代の中で最も点数が少ないことがわかった。その原因は、九州の室町時代が政治的に不安定であったことと、文書の作成状況の変化にあると推定した。

（5）『研究成果報告書』の作成

最終年度に研究成果を独自にまとめた『研究成果報告書』を作成した。研究編には、論文「室町時代の九州の文書」を収録し、室町時代の九州の文書を特色とその背景について検討した。史料編には、九州大学所蔵の「来島文書」「草野文書」「一紙文書」の釈文と写真を掲載した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 佐伯弘次	４．巻 158
２．論文標題 室町期の九州の文書	５．発行年 2021年
３．雑誌名 史淵	６．最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐伯弘次	４．巻 1
２．論文標題 中世における蒙古襲来の記憶	５．発行年 2021年
３．雑誌名 蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際的研究	６．最初と最後の頁 211-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐伯弘次	４．巻 1
２．論文標題 室町時代における少弐氏の動向と大内氏	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大内氏の世界をさぐる	６．最初と最後の頁 302-310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐伯弘次	４．巻 1
２．論文標題 博多の支配と都市住民	５．発行年 2019年
３．雑誌名 港津と権力	６．最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐伯弘次	4．巻 2
2．論文標題 九州の守護大名	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中世の九州	6．最初と最後の頁 40-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐伯弘次	4．巻 931
2．論文標題 対馬と海峡の中世史	5．発行年 2018年
3．雑誌名 学士会会報	6．最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐伯弘次	4．巻 224
2．論文標題 箱崎の元寇防塁	5．発行年 2018年
3．雑誌名 アジア遊学	6．最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐伯弘次	4．巻 8
2．論文標題 16世紀の国際関係と石見銀山の開発	5．発行年 2018年
3．雑誌名 博多・山口・大分三都市研究集会報告資料集	6．最初と最後の頁 12-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 佐伯弘次
2．発表標題 中世文書史上における室町時代-九州を事例として-
3．学会等名 九州史学会日本史部会
4．発表年 2020年

1．発表者名 佐伯弘次
2．発表標題 中世の東アジア交流と博多
3．学会等名 中国文化大学OneAjia基金国際講座（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関